

体育祭での合同体操創作について

—体操に対するコンセプトを合同体操に反映するために—

工藤 亘 松原 優香 小野 真理子 藤 櫛 啓太
河野 峻平 宮崎 純子 小林 潤 内田 広之

玉川学園・玉川大学
健康・スポーツ科学研究紀要
第 16 号

体育祭での合同体操創作について

—体操に対するコンセプトを合同体操に反映するために—

工藤 亘^{*1}、

松原優香、小野真理子、藤樫啓太、河野峻平^{*2}、

宮崎純子、小林 潤^{*3}、内田広之^{*4}

1. マスゲーム・組体操・組立体操について

マスゲームとは、観衆を対象として体操やダンスなどを集団的に行う運動であり、集団のもつ美しさや健康美を表現するものと、国民的精神的運動として行われるものがある。ドイツでは、学校体育の指導方式の一つでもあり、合同体操の様式を発展させたものである。

組体操は、パートナー・エクササイズあるいはペア・ギムナスティクスといい、二人以上の人達が組んで行う体操であり、相互に力を貸し合い、体重を利用し合いながら身体の特長や技術を提供し合うものである。

組立体操とは、スタント・ピラミッドやピラミッド・ビルディングと呼ばれ、表現性の高い体操の一領域であり、空間に互いの意図する造形を構築し、美の共同感を味わうものである。

2. 玉川学園の体育祭小史と体操

玉川学園は1929年(昭和4年)4月1日に設立され、同年の11月22日に第1回体育祭が開催されたのである。当時の主なプログラムは、合同体操に始まり、砲丸投げ、障害物競走、俵奪い、柿取り、職員リレー、マラソン、ピラミッド・ビルディング体操などが行われていた。その後、年に1度のペースで体育祭は開催され、今年度(2015年)の体育祭で第87回を迎えている。

1931年(昭和6年)9月13日にはデンマークよりニルス・ブック氏とオレロップ体操チー

ムが来園し、デンマーク体操の実演が行われて、その後の玉川学園の体育や体育祭をはじめ、日本の体育教育や体操などに大きな影響を与えることになる。

このニルス・ブック氏の来園を機に「オレロップ国民高等体操学校東洋分校」が玉川学園に誕生し、体操を通じた指導者(奉仕者)に対してOTD章を授与することができることになり、現在まで引き継がれている。

第1回の体育祭から合同体操やマスゲーム・組体操などは、その構成や形態は時代とともに変化をしているものの、発達段階に応じながら脈々と引き継がれ、第87回の体育祭まで実施されている。構成内容は、基本体操を中心とした徒手体操や、手具を用いる旗体操、ボール体操、棒体操、棍棒体操、布体操などがあり、組体操などを含む総合的な体操としては中学生讃歌などがあった。

3. 各部の合同体操作成シート

体育祭において合同体操を創作するにあたり、単に運動をつなぎ合わせたものではなく、体操を通じた教育的効果や哲学、背景などを反映することが必要であると考え。これまで合同体操を作成するためのフォーマットは制作者に委ねられてきた。今年度は試案として以下のフォーマットに従い合同体操を作成し、体育科教員の共通の資料として今後役に立てたいと考える。

H27年度幼稚部・低学年合同体操

制作者：松原優香 小野真理子 藤樫啓太 河野峻平

体育祭での合同体操に対する思い

- 1 音楽によって体を動かすことの楽しさを感じさせたい。
- 2 手具を用いて体をダイナミックに動かすことで、運動感覚や体力の向上に繋げたい。
- 3 幼稚部生から低学年生が関わりをもち一つの演技を行うことで、つながりや一体感を高めたい。
- 4 全人教育としての礎の一部である「デンマーク体操」の意義や運動を理解させたい。

マーケティング分析（児童・生徒のニーズを知る）

社会や時代の状況は？（社会的動向）

- ・マ스ゲーム実施率が増加傾向にある。（ソーラン節など）
- ・「体操」の領域の代わりに「体づくり運動」が小・中・高校で実施されている。
- ・児童の体力低下が問題としてあげられる。
- ・様々なジャンルのダンスが人気で、ダンスを習っている児童も多い。

児童の気持ちや求めているものは？

- ・ダンスを習っている児童も多いため、合同体操を通して体で表現することにも意欲的である。
- ・前で発表することに対して、強い憧れを持っている児童もいる。

ポテンシャル分析（潜在的・顕在的可能性）

フィールド資源（自然・施設）の強みと弱み

- ・記念グラウンドは広く、1人ひとり大きく動けるスペースが十分に確保されている。
- ・練習期間は、中央ホールや小グラウンドを低学年だけで利用できるが、雨の場合は利用施設に限られるため、調整が困難である。
- ・総合練習期間は、幼稚部から大学までの施設利用の調整を行う必要がある。
- ・ケガや事故などの対応に健康院、総務部などが機能している。しかし、熱中症対策や突如の雷雨対策として記念グラウンドの屋根の増設が必要である。

人的資源（ノウハウ・ネットワーク等）の強みと弱み

- ・創作においては体育教員のみならず、音楽科、美術科などの協力を得ることが出来る。
- ・1～3年生は担任が練習を見てクラス配列を決めるなど、練習において全教員が関わって創り上げている。
- ・手具の作成は毎年、保護者をお願いしている。

体育祭での合同体操のねらい・コンセプト

- 1 音楽を感じながら体いっぱい動くことで、多様な身体活動に必要な体力や筋力をつける。
- 2 個々で異なる様々な動きを組み合わせることで全体の中での個を意識させ変化のある動きを求めていく。
- 3 朝練習などの場を多く設定することで、自主的に動くことで得られる達成感を感じさせる。
- 4 幼稚部生と低学年生が演技を創り上げていく過程を共にすることで、道徳心を養う。

練習期間・発表日

2015年6月3日～10月3日

場所

練習場所：低学年中央ホール・小グラウンド
発表場所：記念グラウンド

安全管理上の留意点

- ・天候の確認
- ・体調確認
- ・危険箇所の確認
- ・用具の点検と使用法の確認
- ・熱中症対策の促進（水分補給など）

対象

低学年児童
男子：186名 女子：220名
計：406名

スタッフ

体育科教員

必要な物

朝練習カード・スタンプ
音源・音響・マイク
体操の構成表 配列表

実施後の反省点・改善点など

「大空の下で」は、昨年度までの演技プランが7年続いていた。そのため今年度、新しい演技プランにするために、前年12月から取りかかった。演技構成の「1部（4年生）→2部（1～3年生）→3部（幼稚部生と4年生）→4部（全体）」といった順番は変えず、新しい印象を与えるためにはどう変えたら良いのか、音楽や手具の検討から始まった。

K16において、成長段階に応じて手具が選ばれているが、同じ手具ではなく新しい手具を扱うことが出来たら、印象の変化が得られるのではないかと考えた。低学年児童にとって短縄跳びは、体育授業や学園展でも扱うため、身近な物といえる。そのため、4年生では縄跳び、1～3年生では以前使用したこともあるバトンボンボンを用いて創作を行った。

縄跳びを使った演技では、縄の様々な形に変化する特性を利用し、体操と結びつけることで、斬新だったと評価が得られた。バトンボンボンは、児童の背丈ほどある大きな手具であったが、音楽に合わせて力強い演技をすることにつながった。

音楽においては、全体的に速いテンポの同じような曲調のものを使用していたため、音楽に関する意見を多く頂いた。

また、3部（幼稚部生と4年生）の演技は今年度変更することができなかったため、来年度の課題として、音楽も含め検討していきたい。

来年度、新たな合同体操として全てが生まれ変わるため、今年度の実施を反省し、プランを熟成させ、児童が動きの理解、そして表現力の向上に繋がるような指導の工夫、改善を行っていききたい。

H27年度中学年合同体操

制作者：小林潤

体育祭での合同体操に対する思い

- 1 運動を楽しむ瞬間とそれによる自分自身の存在意義の認識を高めさせたい。
- 2 人間形成を目的とした表現活動を行い、体力の保持増進、技術向上に繋げさせたい。
- 3 体育祭練習を通して、中学年職員と児童・生徒の一体感や心の触れあいの充実感を高めさせたい。
- 4 全人教育としての礎の一部である「デンマーク体操」の意義や運動を理解させたい。

マーケティング分析（児童・生徒のニーズを知る）

社会や時代の状況は？（社会的動向）

- ・マ스ゲーム実施率が増加傾向にある。（ソーラン節など）
- ・「体操」の領域の代わりに「体づくり運動」が小・中・高校で実施されている。
- ・マ스ゲームに対して、意欲的な思いや考えを持っている。
- ・卒業生の保護者にとって特別な思い入れがある種目である。
- ・組体操は、社会全体が実施に向けて検討していく時期にある。

児童・生徒の気持ちや求めているものは？

- ・中学年合同体操は、体育祭のシンボリックな種目であること。
- ・8年生のピラミッド、棍棒先頭メンバーに対して、強い憧れを持っている。

ポテンシャル分析（潜在的・顕在的可能性）

フィールド資源（自然・施設）の強みと弱み

- ・記念グラウンドは、人工芝であり、広さも十分に確保されている。
- ・練習期間は、体育館やグラウンドを利用して実施しているが、他学部との重なりもあり、調整が困難である。
- ・幼稚園から大学までの施設利用の調整を行う必要がある。
- ・ケガや事故などの対応に健康院、総務部などが機能している。しかし、熱中症対策や突如の雷雨対策として記念グラウンドの屋根の増設が必要である。

人的資源（ノウハウ・ネットワーク等）の強みと弱み

- ・体育教員のみならず、音楽科、卒業生の振り付け師などの協力を得ることが出来る。
- ・4学年を専任教諭3名での指導体制には、困難が生じている。

体育祭での合同体操のねらい・コンセプト

- 1 力強い動きで表現することで、筋力を補強し、多様な身体活動に必要な筋力をつける。
- 2 静と動の演技によって、変化のある動きを求めていく。
- 3 関節を柔らかく、滑らかにすることで身体各部の可動範囲を広くしていく。
- 4 総合的な身体の機能を高め、巧みに速く動く。

練習期間・発表日

2015年9月3日～10月3日

場所

練習場所：記念体育館・記念グラウンド
発表場所：記念グラウンド

安全管理上の留意点

- ・天候の確認
- ・事故事例の確認
- ・危険箇所の確認
- ・用具の点検と使用法の確認
- ・体調確認
- ・熱中症対策の促進（水分補給など）
- ・盗難等の予防・注意喚起
- ・緊急車両の手配

対象

中学年児童・生徒
男子：284名 女子：371名
計：655名

スタッフ

体育科教員

必要な物

出席カード・シール配列表
音源・音響・マイク
体操の構成表

実施後の反省点・改善点など

「Swing & Wave」は、今年度で10年目となる演目であった。女子の棍棒体操、男子の旗体操は、毎年、進化を続けて完成度の高い演目となった。女子の棍棒隊形の変化や8年先頭メンバーの選出、男子旗体操では演技の構成に変化を持たせながら、組体操、ピラミッドを取り入れた迫力あるものとなってきた。児童・生徒の表現活動を追求していくことは中学年合同体操の伝統を引き継ぐことであり、毎年のように新たな価値を見出し、伝統を創造してきたと考えていた。4学年の成長段階や筋力的な状況を加味しながらさらに進化を求め、新合同体操の製作にあたってきた。女子の棍棒体操の滑らかさや巧みさ、男子の旗体操の力強さや逞しさ、3部については、男女の共演から中学年全員での協調性、融合性を追求していった。新たな合同体操製作で今後のミドルティビジョン発展の一助になりたいということから、新合同体操の製作を進めた。今後は、プランを熟成させ、児童・生徒が動きの理解、そして表現力の向上に繋がるような指導の工夫、改善を行っていきたい。

H27年度 高学年合同体操

制作者： 内田 広之

体育祭での合同体操に対する思い

- 1 体育祭練習を通して集団で活動させることを意識させ、規範意識を持たせたい。
- 2 生徒に体力の現状を認識させ、健康と体力向上の意識喚起をしたい。
- 3 体育祭練習を通して新たな自己や他者に気づき、自主性や協調性を養わせたい。
- 4 運動を楽しむ瞬間とそれによる自分自身の存在意義の認識を高めさせたい。
- 5 全人教育としての礎の一部である「デンマーク体操」の意義や運動を理解させたい。

マーケティング分析（児童・生徒のニーズを知る）

社会や時代の状況は？（社会的動向）

- ・ マスゲーム実施率が増加傾向にある。（ソーラン節など）
- ・ 「体操」の領域の代わりに「体づくり運動」が小・中・高校で実施されている。
- ・ 集団生活への不適応や役割意識・責任感の低下傾向にある。また、集団に埋没し、自主的・自発的な活動も問題視されている。
- ・ 体力低下の問題が継続されている。
- ・ 組体操は社会全体が実施に向けて検討していく時期にある。

児童・生徒の気持ちや求めているものは？

- ・ 体操を中心としたマスゲームを基本とするが、アップテンポな曲に合わせて年齢に応じたプランを要する。

ポテンシャル分析（潜在的・顕在的可能性）

フィールド資源（自然・施設）の強みと弱み

- ・ 記念グラウンドは、人工芝であり、広さも十分に確保されている。
- ・ 柔道場はスプリング入りの畳であることから、組体操の練習を行う際の安全面に配慮することができる。
- ・ 練習期間は、体育館やグラウンドを利用して実施しているが、他学部との重なりもあり、調整が困難である。
- ・ ケガや事故などの対応に健康院、総務部などが機能している。しかし、熱中症対策や突然の雷雨対策として記念グラウンドの屋根の増設が必要である。

人的資源（ノウハウ・ネットワーク等）の強みと弱み

- ・ 日々デンマーク体操を学んでいるデンマーク体操部の生徒が合同体操の作成に携わり、生徒が進んで取り組める動きを検討しながら構成することができる。
- ・ 指導は体育教員全員で協力して行っているが、非常勤講師の教員が多く、勤務時間の問題から打ち合わせの時間をとることが難しい。このことから、専任教諭が少ないことが懸念される。
- ・ プロの音楽編集者がいることで、細かく音楽の編集や音量の調整ができる。

体育祭での合同体操のねらい・コンセプト

- 1 力強い動きで表現することで、筋力を補強し、多様な身体活動に必要な筋力をつける。
- 2 集団行動を通して協調性や規範意識を高め、社会性の向上を図る。
- 3 関節を柔らかく、滑らかにすることで身体各部の可動範囲を広くしていく。
- 4 総合的な身体の機能を高め、巧みに速く動く。

練習期間・発表日

2015年6月1日～10月3日

場所

練習場所：記念体育館・記念グラウンド
大体育館・柔道場・剣道場

発表場所：記念グラウンド

スタッフ

体育科教員

安全管理上の留意点

- ・ 天候の確認
- ・ 事故事例の確認
- ・ 危険箇所の確認
- ・ 用具の点検と使用法の確認
- ・ 体調確認
- ・ 熱中症対策の促進（水分補給など）
- ・ 盗難等の予防・注意喚起
- ・ 緊急車両の手配

必要な物

出席カード・シール配列表
音源・音響・マイク
体操の構成表
男子：棒 女子：ポール

実施後の反省点・改善点など

男子の棒体操は、約20年続く高等部の伝統的な合同体操である。今年度はデンマーク体操部の生徒の協力の下、今まである伝統的な組体操や旋回運動を取り入れつつ、高学年の男子ならではの力強さや巧みさを表現するために、静と動を意識してプランを構成した。昨今の生徒の体力低下により怪我をするリスクが高くなっていった二人組での肩寄せ（神輿）については、一昨年から三人組で行うようになった。教員間で何度も指導方法について相談し、各学年の筋力、コミュニケーション能力、集中力を考慮しながら段階的に指導にあたってきたことで、本番では全員が肩寄せに成功し、達成感を得ることが出来た。

ポール体操は手具としてのポールに息を吹き込むことと、身体と共に操ることを意識して行えるようにさせたいと指導にあたってきた。身体が伸びやかに動くことと自然とポールも躍動感を持ち良い動きになると実感できた。徒手体操はK-12の集大成として、今までの手具等を使っただけの運動表現で養ってきた身体の動かし方と感覚を生かし、11.12年生の女子のしなやかな身体の動き、顔の向きや指先まで意識した体操ができるよう指導にあたった。授業数が少ない中、何も持たずに動くことの難しさに苦戦する生徒達と最後まで向き合い、本番では生徒達の成長した立ち姿、最高学年にふさわしい自信あふれる動き、充実した笑顔を見ることができた。毎年このことだが、合同体操に対し意欲的に取り組む生徒と無気力で取り組む生徒がいる。この二極化を解消するためにも、教師が自主的な取り組みを促せるような指導プランを立て、好ましい態度や仲間との豊かな関わりに繋げられる環境を作ることが重要だと考える。来年度以降も、生徒の自主性・社会性がより高まるようなプランや指導法を模索していきたい。

H27年度大学男子体操

制作者： 工藤 亘

体育祭での合同体操に対する思い

1. 教員志望の学生達に、教育現場に出る前に学校行事や教員の役割を理解させたい。
2. 青年後期にある学生自身の体力の現状を認識させ、健康と体力向上の意識喚起をしたい。
3. 普段話したことのない他学部の学生ともコミュニケーションを積極的に図ると共に、組体操の補助・補助を通して安全管理についての学びを促進して欲しい。
4. 体操を通して、新たな自己や他者に気づき、自己成長につなげて欲しい。
5. 指導者としての視点を広げ、指導力のスキルアップにつなげて欲しい。
6. 玉川大学でのデンマーク体操を導入している意義について体験的に理解して欲しい。

マーケティング分析（人々のニーズを知る）

社会や時代の状況は？（社会的動向）

- ・ 学校行事でのマ스ゲーム実施率が増加傾向にある。（ソラノ節など）
- ・ 「体操」の領域の代わりに「体づくり運動」が小・中・高校で実施されている。
- ・ 指導者側と受講者との「体操やマ스ゲームの重要性」に対するギャップがある
- ・ 対人関係能力・コミュニケーション能力の育成が求められている。
- ・ ダンスは若者に人気がある
- ・ 若者の体力低下問題は継続しており、体力向上のための様々な取り組みが全国的に実施されている。

人々の気持ちや求めているものは？

- ・ 大学生はダンス人気があるが、体操には抵抗感がある。
- ・ 練習期間が夏期休業期間から始まり、土曜日にも行われるため、抵抗感がある。
- ・ ねらいや哲学がある組体操・組立体操を経験した学生は少なく、戸惑うこともある。

ポテンシャル分析（潜在的・顕在的可能性）

フィールド資源（自然・施設）の強みと弱み

- ・ 記念グラウンドは、人工芝であり、広さも十分に確保されている。
- ・ 練習期間は、体育館やグラウンドを利用して実施しているが、人数に対しての広さは十分とは言えない。
- ・ 幼稚園から大学までの施設利用の調整を行う必要がある。
- ・ ケガや事故などの対応に健康院、総務部などが機能している。

人的資源（ノウハウ・ネットワーク等）の強みと弱み

- ・ 大学男子体操の指導経験者が豊富にいる。
- ・ オレロップ体育アカデミーの卒業生が制作と指導を実施している。
- ・ 体育関連施設の利用に関して教員全員が熟知している。
- ・ 大学4年生男子が練習の補佐を務めている。（1年次に、自分達が学習した体操であり、補佐をする時のコツを掴んでいる）
- ・ 指導者は全員男性教員である。
- ・ 指導者の高齢化・固定化が進んでいる。
- ・ 体育祭での体操の運動運動効果を測定できる人材がいる。
- ・ 過去の体育祭での体操で、上体起こし、背筋力などの体幹の筋力が有意に向上している。握力は有意に低下している。柔軟性を表す長座体前屈と、瞬発力の指標である垂直跳びには有意差は見られなかった。（健9号・2008年、健10号・2009年）
- ・ 背筋力、上体起こし、立ち幅跳びでは体力が向上した。（健第12号・2011年）

体育祭での合同体操のねらい・コンセプト

1. 体力の向上（特に体幹の筋力）を目指しつつ、健康・安全について体験的に理解する。
2. 集団行動を通して協調性や規範の遵守などの社会性の向上を目指す。
3. 学部を超えた学生間の交流などによりコミュニケーション能力の涵養も図る。
4. 幼児・児童・生徒に対しても模範的な態度が求められる。
5. 玉川学園・玉川大学での健康教育の在り方、体育祭の意義を体験的に理解する。

練習期間・発表日

2015年9月12日～10月3日

場所

練習場所：大体育館・記念グラウンド
発表場所：記念グラウンド

安全管理上の留意点

- ・ 天候の確認
- ・ 事故事例の確認
- ・ 危険箇所の確認
- ・ 用具の点検と使用法の確認
- ・ 体調確認
- ・ 熱中症対策の促進（水分補給など）
- ・ 盗難等の予防・注意喚起
- ・ 緊急車両の手配

対象

教育学部1年生男子 349名
教育学部以外の体育履修者男子215名
計：564名

スタッフ

大学体育科教員
体育施設管理スタッフ
音響担当スタッフ

必要な物

出席カード・シール
音源・音響・マイク
体操の構成表
配列表

実施後の反省点・改善点など

1. 大学男子のこの体操は8年目を迎え、少しずつ体操の構成や順番を変えながら進化しており、今後も検証しながら継続するものとする。
2. 体幹部分を鍛えるための構成で創作しており、約1か月間での実施であるがその効果はあったと考えられるが今年度は効果測定を実施していない。
3. 教職課程にある学生が対象であり、幼稚園生から高校生までの体操演技を見学することができ、体育祭を通して学ぶことができています。
4. 上記に加えて発達段階の違いに応じた体操や集団行動の指導法を現職教員の動きを通して学ぶことができています。
5. 体操を通して学部の枠を超えたコミュニケーションができ、教え合い、支え合う体験によって現代的な教育課題の解決の一助になっている。